



末次 慎也さん

Profile

お父の かつゆき さん  
ピーマン部会員の末次 和幸さん・永山 裕太さんの元で1年間研修を受講。9月の中古ハウス移設後に苗の定植を行う予定で、今は畑の土づくりの段階。

耕種農家

# Cultivator farmer

仲間と支え合う。

# Livestock farmer

いのちを育む。

[畜産農家]

新福さん一家。ご主人も肝付町で畜産経営を行っている。お子さんの瑛斗くんは1歳。



新福 優美香さん

Profile

30頭規模経営。実家は肥後ファーム(串良町細山田)。仕事熱心で、瑛斗くんを出産する12時間前でも仕事を行っていたほど。

全国的に担い手が減っていく中でも、農業に魅せられ新規就農をした人たちがいます。就農して間もない若手農家の人たちは、どう思うか。お話を伺いました。

## 家族の支え 新規就農の道へ

実家が畜産経営を行っているため、幼い頃から牛に親しんだ生活を送ってきました。とはいえ農業をする気持ちはまったくなかった。そのまま農業とは違う道に進むつもりでした。

就農を意識するようになったきっかけは、祖父の元でバイトとして牛のお世話を行ったこと。実際に牛に接することで「やっぱり自分は牛が好きなんだ」と改めて感じ、自分で経営をやってみよう」と決心しました。そして約3年前に就農。実際の畜産経営は、楽しいことばかりではなく大変なこととの連続で、とても1人ではできな

いと感じました。畜産経営を行いながら、今も様々な面でサポートをしてきている両親に感謝したいです。また、昨年4月には子どもを出産し、子育てを行いながら牛の世話をしている。忙しい毎日を送っています。それでも自分が手塩にかけて育てた牛が高値で取り引きされた時には、やりがいや喜びを感じます。

畜産経営は生き物を相手にするため、休むことができない仕事です。そのため1人だけで経営を行うことは難しく、他の方のサポートをいただきながら経営を行っています。私自身も家族あつての経営だと思っているので、感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張っていきたいです。

## 良い時も悪い時も 部会の仲間たちと

私は6月まで肝付吾平町農業協同組合ピーマン部会で、新規就農を目指して研修を1年間受けていました。前職がJA肝付吾平町であったため、以前からピーマン農家の方々とは面識があり、楽しみに農業をされている姿が輝いて見えて、「いつかは自分もその世界に飛び込んでみたい」と思っていました。

研修では、複数のピーマン農家の元で1年間の流れを経験することができたほか、病気や病害虫が発生した際の木の状態など感覚的に見極めなければならぬことも体験することができました。ピーマンは手がかかる品目であり、技

術の習得が難しかったため、こうした研修を経験しなければ就農することとは難しいと感じています。また、部会という組織に所属することで、同じピーマン農家同士の横の繋がりがあつたり、JA肝付吾平町によるフォローアップがあつたり、安心して営農できる環境が整っています。

9月から実際に自分のハウスで定植を行い、本格的に営農をスタートすることになります。まだまだ不安な気持ちでいっぱいですが、心強い先輩たちがいるので、わからないことは聞きながら自分の経営スタイルを築いていきたいです。良い時も大変な時も同じ仲間がいるので、支え合い励まし合いながら、農業に取り組みたいと思います。



左・ピーマン部会の部会長を務める永山 裕太さん。今後も担い手の育成に力を入れ、部会員一丸となってピーマン栽培に励んでいきたいと語る。

